【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成25年5月16日(2013.5.16)

【公開番号】特開2012-116667(P2012-116667A)
【公開日】平成24年6月21日(2012.6.21)
【年通号数】公開・登録公報2012-024
【出願番号】特願2010-264996(P2010-264996)
【国際特許分類】
Ｃ０１Ｂ　31/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０１Ｂ　31/02　　１０１Ｆ

【手続補正書】
【提出日】平成25年3月28日(2013.3.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
カーボンナノチューブ含有組成物を酸化反応した後に、アンモニアで処理することで、空気中で１０℃／分で昇温したときの熱重量分析で、高温側の燃焼ピークが７００～８５０℃にあり、かつ低温側の重量減量分（ＴＧ（Ｌ））と高温側の重量減量分（ＴＧ（Ｈ））が、ＴＧ（Ｈ）／（ＴＧ（Ｌ）＋ＴＧ（Ｈ））＝０．７５以上とすることを特徴とするカーボンナノチューブ含有組成物の製造方法。
【請求項２】
前記、酸化反応後、アンモニアで処理する前のカーボンナノチューブ含有組成物が、空気中で１０℃／分で昇温したときの熱重量分析で、高温側の燃焼ピークが７００～８５０℃にあり、かつ低温側の重量減量分（ＴＧ（Ｌ））と高温側の重量減量分（ＴＧ（Ｈ））が、ＴＧ（Ｈ）／（ＴＧ（Ｌ）＋ＴＧ（Ｈ））＝０．５以上であることを特徴とする請求項１に記載のカーボンナノチューブ含有組成物の製造方法。
【請求項３】
前記、酸化反応が液相酸化で１００℃より高い温度で行うことを特徴とする請求項１または請求項２いずれかに記載のカーボンナノチューブ含有組成物の製造方法。
【請求項４】
前記、酸化反応に供するカーボンナノチューブ含有組成物が外径１～３ｎｍの範囲の二層カーボンナノチューブを含んでいることを特徴とする請求項１～請求項３のいずれかに記載のカーボンナノチューブ含有組成物の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
［１］カーボンナノチューブ含有組成物を酸化反応した後に、アンモニアで処理することで、空気中で１０℃／分で昇温したときの熱重量分析で、高温側の燃焼ピークが７００～８５０℃にあり、かつ低温側の重量減量分（ＴＧ（Ｌ））と高温側の重量減量分（ＴＧ（Ｈ））が、ＴＧ（Ｈ）／（ＴＧ（Ｌ）＋ＴＧ（Ｈ））＝０．７５以上とすることを特徴と

するカーボンナノチューブ含有組成物の製造方法。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
［２］前記、酸化反応後、アンモニアで処理する前のカーボンナノチューブ含有組成物が、空気中で１０℃／分で昇温したときの熱重量分析で、高温側の燃焼ピークが７００～８５０℃にあり、かつ低温側の重量減量分（ＴＧ（Ｌ））と高温側の重量減量分（ＴＧ（Ｈ））が、ＴＧ（Ｈ）／（ＴＧ（Ｌ）＋ＴＧ（Ｈ））＝０．５以上であることを特徴とする［１］に記載のカーボンナノチューブ含有組成物の製造方法。